

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1056-1		
自己評価作成日	令和元年8月9日	評価結果市町村受理日	令和元年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽
所在地	千葉県旭市口1004-7 TEL 0479-63-5036
訪問調査日	令和元年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様も入所生活が長くもなっている方、まだ年齢的にも若く皆さん一緒に何か行おうと言う事も少なくなってきました。半数近くは90歳前後の方が多くなり外出の頻度も人によってはあまり行きたくないという方も増えてきたこともあり外出はその都度希望をとっては実施しているところ。やはり皆さんの楽しみは食べる事が一番の方が多く外出は行きたくないがという方にもホーム内で思考を変え目先を変えながらの食に対する楽しみを増やして行ければと思いついて取り組んでいます。日々の中で利用者様にとつての生活の張を増やし何か役割をもって達成したことに対しご褒美みたいなことを多く取り入れながら今現在努力しています。よりその方にあつた個別対応に取り組んでいくことが結果的に利用者様の笑顔に繋がって行くことを願い継続していきたくと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人一人の要望を資源の中で対応できるか？を考え職員一丸となり対応していく意欲があり、評価の指摘を受け止め改善していく姿勢がある。利用者が高齢となり外出が難しくなっているが、日々のレクリエーションなどを外で行う工夫をしている。複合施設をメリットとし、ボランティアが他施設に来る時などは移動し楽しみを作っている。職員の入れ替えがあるので新しい対応、工夫を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの見える所への掲示し意識付け出来る様にしている	リビングに掲示しているが、新規のパート職員には十分伝わっていない。月一回会議は行っているが理念の話はしていない。	全ての職員に理念の共有を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各個人研修への参加や、地域行事への参加、クリスマス会等を通し交流を行える様取り組んでいる	地域行事への参加は継続している。子供会にはクリスマス会に参加してくれており、利用者も喜んでいる。同じ敷地へボランティアがくる時は移動し地域の付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加くらいでなかなか活かできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回以上を目標にかかげ実施し、会議の際にも意見を聞きだし普段も面会の際になるべくご家族とかかわりを持つ様にしながら取り組んでいる	行政には参加してもらい年4回は実施している。6回は目指しているが出来てはいない。書類の書式を変え見やすくし、まんねりの解消を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な地域密着の会議や交流会や研修にも参加しながら協力関係を築いている	市町村との連携は取れている状態であるが、担当の変更の可能性あり連携の継続に不安にある。	担当が変更されても関係の継続に期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしないケアに取り組む状況下においてもなるべく拘束は避けるケアを見つけ出しながらすすめています	現在、身体拘束は行っていないが、県の研修には参加している。委員会の立ち上げの予定がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年社内研修には担当制で取り組み外部研修やカンファレンス等にて職員の意識も高め防止に努めている		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や外部研修にて対応出来るよう取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の家族の疑問等を理解し説明を行い納得してもらえる様取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議を通し役所の参加、地域の方の参加を促し取り組んでいる	意見箱を設置をしたが、意見は入っていない。苦情の書類は整備され、職員には申し送りにて伝えている。家族には個別に話をする機会をもうけていれる。直には言えない場合の対応は家族に伝えている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファを通しここに職員の意見を吸い上げる様に取り組んでいる	職員の意見の言いやすい雰囲気を作り、聞くようにしている。外部研修へは参加している。外部講師の計画は止まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が主となり取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々それぞれに任せられ自らのスキルアップにて努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は定期会議や交流会等の機会はあるものの、ほか職員の研修等勉強会を増やして行く努力が必要である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時、個別対応を職員も心がけコミュニケーションを図る様に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時の家族からの話を聞き取り面会時でも利用者様の状況報告を伝えながらかわりを持ち関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時によく聞き取りしながら情報収集に取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で日々役割を持ってもらい共に行いながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じ家族と話をしながら支えていく環境作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会や、電話でのかわりや行事実施に伴う交流の機会等を通し関係性を継続している	家族への報告は写真付の物を送り、地域の行事の参加は交流の継続につながっている。友人、親戚の訪問も継続されている。床屋は近所を使っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所期間も長くなると利用者様同士も職員とは別な関係性があり個々それぞれが支え声掛けしながら関係性を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先への訪問や様子を伺う機会を作る様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の意向を聞き取り把握するようにしている	買い物は家族の意向も考慮しながら利用者の要望を聞き対応している。一人一人の要望も聞き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段のコミュニケーションの中で出来るだけ今までの生活歴を聞き取りながら支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアにてそれぞれの能力出来ることを把握しながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族からの聞き取り等行い情報の共有を図りながらカンファレンス等で取り上げ反映している	職員の話し合いは出来ており、利用者の対応などはその都度、細かく意見を交換している。	評価の方法に改善な箇所があるので、職員と話し合い、改善を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に情報の共有を図りながら見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況にて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々それぞれの状況を把握しながら必要なものを取り入れながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や必要に応じ往診依頼をしたり訪問歯科も取り入れたりしながら支援している	薬の管理は薬局との連携にて対応している。行っていない利用者も今後話し合いで対応を検討している。往診は継続されている。歯科は今も行っていないが再会は出来る状態である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師を配置している為常に相談をし、必要な部分では支持を仰ぎ対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時になるべく早期に退院できる様、連携室や家族とのコミュニケーションを図りながら行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ家族との密な話し合いや相談を受けながら取り組んでいる	看取りは行っていないが、マニュアルはあり対応は出来るようになってきている。事前に家族、本人への意見を聞き、対応していく話し合いは出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や外部研修において身に付けられるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内研修や日々の訓練を行いながら意識付けする様に努めている	避難訓練は年2回行っているが、今後は災害対応の訓練を検討している。直前の災害は職員・管理者で対応する事はできたが課題もある。	課題の改善と急変時の対応として、救急講習を受けることを望みます。

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの状況を把握しながら対応している	接遇や論理などの外部研修への参加は行っており、部屋の入口には扉を開けても中が見えないように暖簾を使うなど配慮している。利用者の関係には十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中でご本人の思いや、要望を引き出すことで対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の話をよく聞きご本人のペースに合わせながら対応するように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望をなるべく聞き取り必要に応じてなるべく希望に沿った対応が出来るよう努力している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれの嗜好を把握しながら出来ることは行ってもらいながら支援している	外食が年齢が上がるにつれ難しくなっている事から、テーブルクロスを変えたり、施設内で工夫をしている。特別な日には食器などを変えて食事を目から楽しんでもらう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時それぞれの状況を確認しながら対応し、必要に応じては代替えも取り入れ対応出来るよう努力している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ介助や訪問歯科を取り入れながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々それぞれに対応しながらご本人が不快にならない様気を配っている	排泄のチェックを行い、情報は職員で共有が出来ており、排泄体操を行ったり、排泄の工夫を日々することで一定の成果はでている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを確認しながら看護師に相談仰ぎながら支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな人あまり好きではない人それぞれの好みにて順番も配慮しながら入浴剤も季節で変えながら楽しんでもらえる様努力している	入浴は曜日は決めているが、不満とかは出ていない。訴えがでた場合はその都度対応できるようにする体制は出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	普段はリビングにほぼいる利用者様もだんだん体力の低下もありなるべくご自分のペースで生活してもらえるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師、薬剤師と連携を図り必要に応じては相談しながら対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で出来る事や個々それぞれの能力に合わせて役割や嗜好、好みの事など日々のコミュニケーションの中で探りながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の利用者様の希望を情報収集しながら外出等も支援している	ドライブや買い物は定期的に行っており、行事や外食も以前より近くになっているが、出かけている。書類は計画書として記入している。	外出支援時の計画書に反省点など記入し次につなげる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く利用者へは把握しながら使用してもらい支援している利用者様によっては少しは自分管理をし必要時に使える様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ連絡できる環境に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく居心地のよい空間作りをするよう努力している	利用者の出来るところは掃除を手伝ってもらい、散歩時には咲いている花を採ってフロアーに飾っている。行事の前には行事に合わせた飾りつけを利用者と作り飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてのそれぞれの居場所の配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりがある利用者様も居る為本人が居心地よく過ごせる様に努め何か要望がある時はすぐに対応出来るように努めている	部屋に季節の物を飾ったり、自分の作品を飾っている。居室担当により部屋は整理整頓を心掛けている。プライバシーを守る為に暖簾を使うなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や席等は自ら使用できるように分かりやすいように配慮し、必要に応じ声掛けをするよう気を配っている		